

一歩



成人の節目、教祖140年祭に向けて —ようぼくの集い—

去る 11月16日(土)、午後2時30分から4時30分までようぼくの集いが開催され、65名が参加しました。またシカゴ地区では、当日伝道庁で参加できなかった10名の方々が、ひのきしんを行いました。夕づとめ後には懇親会が行われました。

天理教アメリカ伝道庁

No.925

DECEMBER

2024



tenrikyo.com



つらつらせんがく 熟々浅学



— 営業と“にをいがけ” (1) —

本年も12月となり、教祖140年祭年祭活動の2年目も終わりに近づいています。

本年6月30日にアメリカ伝道庁創立90周年記念祭を滞りなくつとめ終えさせていただくことができ、大変有難く思っております。これも偏に先人が遺されたご功績のお蔭であり、また管内のみならず、アメリカ伝道庁に心をお掛けくださっている皆様のお蔭によります。記念祭に対する御礼と共に、本年一年間賜りましたご厚情に篤く御礼申し上げます。

また、新年も本年同様、変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますと共に、年祭活動の最終年になります新年も、お互いに励まし合って通りたいと存じます。どうぞ宜しくお願い致します。

さて、「コカ・コーラを日本一売った男の学びの営業日誌」(山岡彰彦著、講談社発行)という長いタイトルの新書があります。ちょっと興味があって読んでみました。

今月号のタイトルを「営業と“にをいがけ”」としましたが、全く関係ないように思う人もおられると思います。しかし、この本を読んで、何かしら共通点があるように思われ、“にをいがけ”の参考になるのではと思ったのです。著者は、自分が学んできた「営業」に関しての事柄をこの本に著しているのですが、その学びがどこか“にをいがけ”にも相通じるように思ったのです。

例えば、この本の見出しの一つに『相手の「NO！」からスタートする』とあります。

営業を始めても、取引先の要請から商品を紹介して、直ぐに買ってもらうことはありません。先ずは「NO！」と断られることが常です。

“にをいがけ”も同様で戸別訪問の際、「NO！」と断られることが常です。どのような布教経験があっても、どのような能力があっても、どのような学校を卒業していても、戸別訪問して直ぐに話

を聞いてくれる人は、ほとんどいません。たまに話を聞いてくれる人がいても、その場で入信する人はいません。大概は「NO！」と断られるのです。戸別訪問の“にをいがけ”では「NO！」と言われることの繰り返しです。

そこで、本の紹介のようになりますが、この著者が営業上で学んで来たことを紹介して、“にをいがけ”の一助として役立ててもらえればと思い、数回に分けて、このタイトルで書いていきたいと思っています。

尚、もっと知りたいと興味のある方は、本書を購入して読んでいただきたいと思います。但し、日本語のみですので、英語しか読めない方々には申し訳ありません。

本書には小見出しがありますので、そのいくつかを題材として、思うところを書いていきますので、ご承知おきください。

・一日三十分本を読む (前述書、18頁)

「営業は現場で学べ」と教わるようですが、実際に先輩が行っていることを真似して営業をしていても成績は上がりません。

そこで著者は営業に関する本を読んで、そこに書かれているノウハウで売り込みに挑みましたが、少し踏み込んだ話になると途端に会話が上手くできず、自分の言葉が薄っぺらなものであることを思い知らされたのです。

ある日先輩から、本に書かれている専門的な知識をどれだけ蓄えても、それは電信柱のように1本の棒みたいなもので、直ぐに倒れてしまう。ちょっと知識を掴まんでも現場では使い物にならないので、その棒(電信柱)を支える知識の裾野をしっかりとさせることと言われたのです。つまり、その棒を中心として周りから支えられるような、言わば山のような形にすることが大切だと言われました。専門知識を持っていることに越したことはないが、脇を固めて簡単に倒れないようにする

こと。そのために多くの本を読むこと。学校の勉強とは違い、「1日30分、本を読めばよい」というアドバイスももらったのです。

著者は、1日30分の読書時間を習慣化させてさまざまなジャンルの本を読んでいると、取引先で多少踏み込んだ話ができるようになり、更に、相手の話に傾聴できるようになったとのこと。特に相手の言いたいポイント、主旨を理解しながら話が聞けるようになったとのことです。

この著者が書いていることは、お道でも同じように思います。うろ覚えの教理では人に話も取り次げないでしょうし納得してもらえないでしょう。お道の本、特に原典を中心として、天理教教典、稿本天理教教祖伝、稿本天理教教祖伝逸話篇を含め、先人達の教話本、或いは教理書を読むことは大切だと思うのです。つまり、自分の教理的知識を深め、同時に信仰心を深めることが大切です。ですから、伺歳になろうとも教理勉強は不可欠なのです。

・きちんとした姿勢をかたちにする

(前述書 23 頁)

著者が勤務していたコカ・コーラ高知営業所では全員が制服を着ているそうです。毎日商品を運ぶので制服が汚れるのですが、営業所にはクリーニングシステムがあり、翌日には綺麗な制服を着て営業に回ることができるらしいのです。しかし、靴は自前の靴なので、自分で購入して手入れしなくてはなりません。

ある日先輩から身だしなみの大きさを指摘されました。制服が綺麗で頭髮が整えられていることはもちろんですが、なかでも靴を綺麗にしておくことが大切であると言われたのです。

営業では歩き回るため、どうしても靴が汚くなるので、靴が汚れていても“当たり前”と思ってしまいがちだが、人の目は意外と足元を見ているとの指摘。靴の手入れが行き届いているだけで、しっかりしている人と印象を持ってくれるとのことです。

それ以来、著者は靴の手入れを心掛け、ある取引先から「あなたはいつも靴を綺麗にしている」と言われ、そこから商談に繋がったことがあったのです。

私たちお道の間も身だしなみには気を付けることは大切でしょう。にをいがけ、おたすけに出る時には、男性はドレスシャツにネクタイ着用で出掛けることが多いですが、靴の手入れ

をどこまでできているのかの確認が必要かもしれません。また、普段からも足元を含めた身だしなみには気を付ける必要があるのかもしれない。

・行動は言葉よりも雄弁(前述著書、26 頁)

著者が入社してすぐに営業研修を受けたのですが、基本的なことしか学ばないため、実際の現場では自分で考えながら、どのように営業するかを決めなければなりません。

しかし取引先の人にとっては営業しているのが新人であろうがベテランであろうが、そのようなことは一切関係ありません。会社の人間として対等に扱い、交渉するのです。

著者が毎週ルーチンで回っているあるお店の自動販売機(以下、自販機)が古くなってきたので、新しい自販機に入れ替えてほしいと思っていたのですが、夫人が一人で切り盛りしているような小さな店だったので、なかなか売り込みができなかったのです。

ある日、その店に品物を届けに行った時に自販機の汚れが目につき、その汚れを綺麗にしたのですが、それを店の訪問のたびにを行うようになったのです。

そんなある日、その夫人から呼び止められ、席につくと著者が届けたことのない自販機のカタログが置かれてあったのです。それは急な注文をした時に同僚が商品と共に置いていった物だったのです。その同僚が自販機の交換を勧めたのですが、その夫人は著者に交換を依頼したのです。その理由は、店に来るたびに自販機を綺麗にしてくれる人、つまり著者から買いたいとのことでした。

この経験から著者は「行動は言葉よりも雄弁(Actions speak louder than words.)」という諺に思い至ったのです。

お道の“にをいがけ”でも同様ではないでしょうか。言葉で教理を説くことも大切ですが、二代真柱様が「天理教を知りたければ私の行動を見て下さいと、この一言がすばりと口から出せるように諸君がなつてほしい」(おふでさき概説、124 頁)と言われるような信仰者になることも大切なのではないでしょうか。

(続く)

深谷 洋

立教 187 年 11 月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、紋型ないところからこの世人間をお造りになられ、旬刻限の到来と共に、教祖をやしろにこの世の表にお現れになり、世界一れつをたすけるための御教えをお啓きになられました。爾來、御教えは世界に伸び広がり、アメリカ、カナダの地にも、教祖のひながたを頼りに、陽氣ぐらし世界実現を目指して励む者をお与えただいておりますが、これも偏に、親神様の御守護と教祖の親心の賜物と存じます。私共は、日々たすけ一条の道を通らせていただいておりますが、その中にも今日の吉日は、当伝道庁の十一月の月次祭を執り行う芽出度い日柄でございますので、只今より、おばの理を頂戴し、おつとめ奉仕者一同心を一つにして、陽氣に座りづとめ、てをどりをつとめてさせていただきます。

御前には、今日の日を楽しみによぶごく、信者一同が参り集い、日頃賜る御高恩に御礼申し上げ、尚も変わらぬ御守護にお縋りたいと、声高らかにお歌を唱和する状をも御覧くださいます、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

昨日は、当伝道庁のようぼくの集いを無事に開催することができ、誠に有難うございました。管内の教友が繋がり勇ませ合う機会となりましたが、これからも、よぶごくの使命を自覚して、たすけ合いながら、この道を広められますようお育ての程をお願い申し上げます。

私共は、争いの絶えない世界情勢を鑑みて、親神様が思召くださる陽氣ぐらし世界実現へと近づけるよう少しでも歩みを進めたいと存じます。また、教祖百四十年祭祭活動二年目の終わりに近づきつつある今日、管内の教友の心を一手一つにして、世界たすけの御用に励みたいと存じます。何卒、親神様には、届かぬところは幾重にもお仕込みくださり、世界の人々が互いに手を取り合ってたすけ合う世の状に、一日でも早く立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

11 月月次祭神殿講話

ニューヨーク天理文化協会主任
弓削 マイケル

おはようございます。ただ今は、皆様方と共に、勇んで陽気に 11 月の月次祭をつとめさせて頂き、親神様、教祖も喜んで私達をご覧になっていると思います。今月の祭典講話のご指名を頂きましたので、お聞き取り頂きますようお願い致します。

先に執り行われた伝道庁の創立 90 周年に家族と共に参加させて頂き、嬉しく思いました。その一方、ロサンゼルスに到着すると、母の気分がすぐれず、翌日肺炎で入院することになりました。幸いに現在は随分と回復しましたが、伝道庁の 90 周年という節目に参加できなかったのは残念でした。1936 年、私の祖父が伝道庁の書記としてロサンゼルスに派遣されました。第 2 次世界大戦という不運な状況で、時の庁長は、若い時に日本陸軍に仕えていたことから、日本に送還されました。そのような経緯から、祖父はその後 3 代庁長となり、私の母と母のきょうだい 6 人は伝道庁で生まれ育ちました。母は、多くの歴史的写真に写っており、その一つは、赤ちゃんの時、この神殿普請を背景に写真に収まっています。母は 87 歳でこの建物と同じ年齢になります。母が結婚し、子供が授かると、夫婦で伝道庁の住みこみスタッフとしてつとめることを心定めました。従って、私達きょうだいは伝道庁で育ちました。その時以来、伝道庁の 90 年に亘る歴史の大半において、母は欠かせない存在となりました。

母は伝道庁ではおなじみの顔で、スタッフがよく入れ替わる中でも、訪問者も気付くほどでした。修養会受講生に、伝道庁の歴史について話をするのも母でした。少年会活動やこどもおぢばがえりを通し、次代の育成に熱心でした。30 年以上に亘り、母はこどもおぢばがえりでおぢばに毎年帰りました。ニューヨークのある子供たちが私の家族写真を見て、



なぜ 38 母屋の人が写真に写っているのか聞いてきました。おぢばへ帰る度に私の母を 38 母屋で見かけるので、そこに住んでいると思ったようです。

父が 1991 年に出直すと、母はヘリテッジ教会を設立する心定めをしました。2002 年、母が 65 歳の時、ヨーロッパ陽気暮らし講座において、次のように述べています。

伝道庁直轄のヘリテッジ教会を始めることになったのは、将来に繋がる私の家族が、しっかりとした信仰信念を築き、責任感を持って教えを実行していってくれるように願ったからです。加えて、私の子供たちが守られ、陽気な暮らしができるようお導き頂きたいと思ったからです。

更に、次のように述べています。

子供たち、孫達がこの道を通ってくれることを非常に嬉しく思います。いっしょに住んでいる一歳半になる孫が、神殿の方に走っていき、手をたたいて頭を下げるの見て、私がやがていなくなっても、その孫は辛い時は勿論のこと、いつも信仰に基づいた人生を送ってくれるだろうと思い、とても嬉しくなりました。朝夕につとめる毎日のおつとめの大切さを知ってくれるでしょう。時が経つにつれ、

他の人達を助け、他の子供たちと共に行動することの喜びを学んでくれることでしょう。この世界に平和と調和をもたすためには、積もる心のほこりを弛まなく、素早く払うよう努めなければならぬことを学んでくれるでしょう。

そして、以下のように締めくくっています。

この時、この次代に生きていることはご守護の賜物です。数々の幸運や機会に恵まれるなか、その中でも自分の人生、家族が最上の喜びです。

ヨーロッパ在住の教友に自分の信仰を話す機会を得て、母はとても光栄でした。私達多くの親にとって、子供たちが信仰を受け継ぎ、陽気暮らしに向かっていくことが何よりの希望ですが、母の考えはその思いを表していると感じます。

その後、ある日、母は物忘れをするようになり、医者に診てもらおうと認知症とのことでした。普通に車を運転することもできなくなりましたが、伝道庁だけの行き来は許可を得ました。そして、引き続き毎日伝道庁に来て、女なりものの調弦など自分にできることをさせて頂きました。伝道庁でひのきしんに励ませて頂くことで、数々のご守護を頂き、これまで長生きさせて頂き、また、実りのある生活を送らせて頂くことができました。

人に好かれ、いっしょに仕事がしやすく、いつも人を助けようとする性格で、そのような母を持ち、私は恵まれていると感じます。母のように、強く、一生懸命で、誠意を持ち、素直でありたいと思います。母は私が生きていく上での手本であり、母と呼べることに誇りを感じます。この場にいる母に、これまでの尽力に、皆様もご一緒に感謝して頂ければと思います。

次の私のヒーローについてお話させていただきます。森下二郎会長さんが出直されてから、今年で15年になります。35年ほど前になりますが、当時の青年会委員長であった二郎会長さんは、総会の準備をしていました。総会で観てもらおうと、私達の何人かがボイルハウスのビデオを制作していました。2台の車に分かれ、二郎会長さんは私が運転し、先導する車に同乗しました。近くにあるキングタコのビデオを撮った後、近所のパーティーの

様子を撮影するため、青年会部屋のあった建物の裏側にある路地を通ろうということになりました。パーティーの場所と私達の車の間にギャングがうろろうとしており、細い道をふさいでいたのです。彼らをよけることもできず、その路地をバックしようと思いました。恐らく私達をライバルのギャングだと疑い、高性能ライフルを取り出し、私達を撃ってきたのです。大きな銃声が聞こえると、二郎会長さんが撃たれ、痛みで苦悶していました。弾丸がドアを貫通し、足に当たりました。身体の中で一番大きな大腿骨を粉々にしたのです。小さな車だったため、二郎会長さんは足を上げて座っていたのですが、二郎会長さんに弾丸が当たらなければ、恐らく私に当たっていました。

幸い近くに警察官がおり、救急車を呼んでくれました。しかし、無実の犠牲者とは逆に、ギャングの一味ように扱われました。病院に着いても、他に銃で撃たれた人が何人かおり、その人達が優先で、一晚中診てもらえませんでした。翌朝、別の病院に搬送されましたが、すでにかかなりの時間が経過しており、足を切断しなければならぬかもしれないと言われてきました。また、回復しても、元の通りにはならず、スポーツは一生できないだろうとも言われました。

二郎会長さんが撃たれたのは、悪夢の始まりに過ぎませんでした。足を失うことになるかもしれないと言われ、二郎会長さんは、義足をするようになったらどのようなようになるだろうかと想像し始めていたと口にしました。どのような中にも常に物事を肯定的に捉え、自身の経験から、人生で何かがあった時は振り返ることだとよく話をしていました。

論達第四号に、以下のようにあります。

「ふしから芽が出る」

と、成ってくる姿はすべて人々を成人へとお導き下さる親神様のお計らいであると論され、周囲の人々を励まされた。

「天理教用語集」に、「身上、事情はふしと教えられる。ふしとは、木の節や竹の節のようなもので、そこから新たな成長がある。人は、身上であれ、事情であれ、そのふしを通し、ほこりの心遣いを反省し、ふしに込められた親心に目覚め、誠の心に根ざした生き方をす

ることが求められる」と記されています。

おさしづに、
もうあかんかいなあ／＼というのは、ふしと
いう。精神定めて、しっかり踏ん張りてくれ。
踏ん張りて働くは天の理である、と、これ論
し置こう。(明治37年8月23日)
とあります。

当時の私達の多くは、とりわけ青年会に関
わっていた者は、この出来事を自分達全員の
ふしと受け取りました。二郎会長さんは、ど
のように進むべきかを行動と態度で示してく
れました。事件に対して怒りや後悔を口に
することは全くなく、天理柔道のコーチや、
ニューヨークセンターをはじめ数々の教会や
布教所の神殿建築を手がけるなど、高い次元
でその能力を回復させました。また、ジョイ
ワークショップやスリーデーコースなどの育
成プログラム立ち上げには、中心的な存在で
した。

事件から一年後、私は親里高校の英語教師
として天理に住んでいました。二郎会長さん
の手術やリハビリに要する大方の費用は、州
の暴力行為の犠牲者に関わるプログラムから
支払われました。数度に亘る手術と理学療法
の後、残されたのは、回復の間、足を固定す
るために使用された金属板と大きなネジを取
り除くことでした。しかし、州の該当する基
金が底をつき、全費用をまかなうだけのお金
が自身にはありませんでした。幸いに、特別
の計らいで、天理の憩いの家病院でその手術
をしてもらえることになりました。二郎会長
さんの高校時代の友人に平野裕子という人が
おり、その妹の容子が病院の手術室で勤務
していました。裕子さんが容子に二郎会長さん
の世話取りをお願いし、容子と二郎会長さん
は仲が良くなりました。私は、毎日勤務を終
えると二郎会長さんを見舞いに行き、そこ
で容子と出会いました。退院後、二郎会長
さんが容子と私の二人を夕食に招待してく
れ、その際、容子に、アメリカを離れ、私
が一人で寂しい生活をしていると話をした
のです。私達に付き合いをするように仕向
けたのです。やがて私達は結婚し、ニュ
ーヨークに移り、天理文化協会で働くよ
うになり、3人の子供に恵まれました。

それから何年か経ち、文岡邦人氏がコネチ



カットの大学院で学んでいる時、ニュ
ーヨークセンターの月次祭に毎月参拝して
くれました。容子の妹の道子を彼に紹介
し、その後二人は結婚しました。現在、シ
カゴにあるミッドウエスト教会の会長
夫妻として頑張ってくれています。それ
から、つい最近のことですが、道子が、
元々二郎会長さんの友達だった姉の裕
子をシカゴ教会の木村先生に紹介しま
した。お二人も気が合い、先月結婚さ
れました。この場をお借りし、木村昌
人先生、裕子ご夫妻にお祝いを申し上
げたいと思います。親戚となりましたね。

35年前の一つの弾丸から、3組の夫
婦、3人の子供が誕生し、それぞれがア
メリカの道の上にとめています。私にと
っては、とても辛い、想像もつかなか
ったふしから、いくつもの芽が吹いた
ように思います。二郎会長さんは、い
つも兄のように感じる人で、尊敬し、
アドバイスをもらう存在でした。私達
の多くを先導し、奮い立たせてくれる
リーダーでした。どうしてあのように若
くして去ってしまったのかは今も分か
りませんが、ブラザーフード教会や森
下家族、また、彼の道のために尽す
姿に感化された人達を通し、二郎会
長さんは今も私達といっしょにいて
くれると感じます。

三番目の私のヒーローは、ウエス
リー・ドテさんです。先月、出直した
との悲報に誰もが衝撃を受け、悲し
い思いをしました。彼は

皆の友達で、毎月サクラメントから伝道庁まで車を運転して参拝し、毎年こどもおぢばがえりでおぢばに帰り、学生会や教育育成委員会を通して、次代の育成に懸命でした。いつも明るく、元気で、心強く、優しく、寛大で、一生懸命でした。いつも傍らにいて、目立たないところで手を貸してくれたり、写真を撮り、皆にタコスを買ってくれました。こうした数々の彼の性格は、私達の誰もがそうでありたいと努力しているところだと思います。ウエスリーは、私達にとっては静かな妖精のようで、どれだけ大切な存在であったかを、これまで気付きませんでした。本当に寂しく感じます。

諭達第四号の中で、真柱様は私達に教祖のひながたを辿るよう促されています。このお道は素晴らしい教えですが、難しくもあり、時には達成できそうにない理想のように感じてしまうところがあるかもしれません。私がお話した三人のヒーローは、教祖のひながたを辿る点で、手本を示してくれました。私達の社会や、お互い神の子供である世界のきょうだいのために奮起すべく、力と気力を与えてくれる手本として受け取らせて頂きましょう。

諭達第四号に、次のようにお示し頂きます。

教祖お一人から始まったこの道を、先人はひながたを心の頼りとして懸命に通じ、私たちへとつないで下さった。その信仰を受け継ぎ、親から子、子から孫へと引き継いでいく一步一步の積み重ねが、末代へと続く道となるのである。

先人が懸命に通じ、私達が通るようにつないで下さった道が続いていくよう最善を尽くさせて頂きましょう。素晴らしいデザインされたニューヨークセンターの神殿を見ると、

所長をつとめられた森下敬吾先生や子息の二郎会長さんの信じられないほどのご功績を思い浮かべ、他の人のために祈り、手助けするようできる限りのことをさせて頂きたいと思えます。私達のニューヨークセンターの神殿周囲の景観、そして伝道庁の立派な庭を見ると、これらに関わった景観設計家の上杉先生が、環境への意識を高めて下さったご努力を思い出します。ニューヨークセンター神殿の音響や通訳機器の準備をすると、横井氏が腎臓透析の身にもかかわらずニューヨークに何度も来られ、設備を整えて下さったことを思い出します。こうした誠実な話を次代に伝え、育てさせて頂きましょう。

年祭活動も折り返しの年となりましたが、大切なことは、年祭はふしを見せて頂く時ともお聞かせ頂きます。2026年の教祖140年祭、そして、2027年のニューヨークセンター創立50周年という旬に、ふしから芽が出るご守護を頂きたいと思えます。この旬に、心の成人に最善を尽くし、親神様、教祖、そしてアメリカの道の先人の方々にお喜び頂けるようつとめさせて頂きましょう。神様は、私達が心新たに信仰を深め、道の将来を担う次代の育成に更に心を尽くすようお急ぎ込み下さっています。この大切な時に、ここにご参拝の皆様方と一手一つに、陽気暮らしへの道を歩ませて頂きたいと思えます。

ご清聴頂き、ありがとうございました。



雅楽おとまり会

11月23日～24日





伝道庁連絡



11 月月次祭

祭主 庁長
 扨者 大西 知 福井陽一
 賛者 岩橋元博 富沢ポール
 指図方 木村昌人
 神殿講話 弓削マイケル（英）

教会事情

ブラザーフッド教会：任命願、臨時祭典願
 おはこび：2024 年 11 月 26 日
 後任教会長：ブラウン・レイモンド・ジェームズ
 奉告祭：2025 年 2 月 8 日
 サンフランシスコ教会：移転願、臨時祭典願
 おはこび予定：2025 年 1 月 26 日
 鎮座祭：2025 年 1 月 31 日
 奉告祭：2025 年 2 月 1 日

おつとめ奉仕者任命

2025 年 1 月 1 日（水）付で伊藤錦平オレンヂ教会長が、2025 年 1 月 18 日（土）付で馬目広三ジョイアス布教所長、蘇リン台檀教会長、大林昌代ユタ教会長、田所万喜ハイサクラメント教会長夫人、雪本清香セントラルフレスノ教会長夫人、雪本小百合サンライト布教所長がおつとめ奉仕者に任命されます。

よふぼくの集い

11 月 16 日（土）、午後 2 時 30 分から 4 時 30 分までよふぼくの集いが開催され、65 名が参加しました。またシカゴ地区では当日参加できなかった 10 名の方々がひのきしんを行いました。タブとめ後には懇親会が行われました。



TSA 冬期練成会

TSA 冬期練成会は、12 月 26（木）～ 29 日（日）の日程で開催します。申込用紙は既に配布していますが、伝道庁ウェブサイトからも入手可能です。申込締切：12 月 8 日（締切後も申込みを受け付けますが、遅延料金等の兼ね合いで、参加費に \$20 が追加でかかります。）

年末年始行事予定

12 月 26 日（木）の選擇式後、午後 12 時 30 分より伝道庁年末大掃除を行います。大掃除のお手伝いのできる方は、また、同日の昼食を希望される方は、早急に伝道庁にご連絡下さい。12 月 28 日（土）は餅つきを行う予定ですので、伝道庁近郊の皆さんのひのきしんをお願い致します。

また、元旦祭は、1 月 1 日（水）午前 7 時（午前 6 時 40 分より開扉・献饌開始）より執り行いますので、伝道庁近隣在住のおつとめ奉仕者で、おつとめ役割を務められない方は 11 月 30 日（土）までに伝道庁書記にお知らせ下さい。

修養科英語クラス

修養科英語クラスが来年 3 月末から 3 ヶ月間、おちばにて開講される予定です。日本国査証の必要な志願者は、査証取得に時間がかかりますので、お早めに伝道庁にお知らせ下さい。尚、何らかの理由で修養科英語クラス開講の中止、また査証取得ができない場合がありますので、ご了承下さい。

Three Day Course

2025 年 2 月 21（金）～ 23 日（日）の日程で開催します。英語コースは 4 名以上の申し込み、スペイン語コースは 2 名以上の申し込みがある場合のみ開催します。締切は 2025 年 2 月 16 日ですが、受講希望者が分かっていたら早々に伝道庁までご連絡下さい。

全教一斉ひのきしんデー

来年の全教一斉ひのきしんデーの計画を各地区にてお願いいたします。各地区担当者の方への計画書用紙を配布しますので、12 月 26 日までに伝道庁に提出して下さい。

一れつ会特別扶養生募集

2025 年大学入学予定者に対して、「一れつ会特別扶養」の募集をします。締切は 12 月 31 日です。

祭典役割

祭典参拝の有無、或いは変更は、参拝予定月

の前月月末までに伝道庁に連絡して下さいますようお願い致します。例えば、来年1月春季大祭参拝有無に関しては、今月末（12月31日）までに最終連絡を下さいますようお願い致します。

各会連絡

布教委員会

- ・教会長・布教所長・出張所長夫妻研修会を2025年2月15日午後開催予定です。
内容：メンタルヘルスについての理解を深め、おたすけ活動に役立ててもらえる内容を検討中
- ・2025年より、おぢばでの回廊拭きひのきしんを再開します。教会本部朝づとめ45分前に南礼拝場東側後方に集合してください。
日程：1月25日、4月17日、10月25日

教化育成委員会

- ・おやさと練成会
おやさと練成会事前講習は、12月26（木）～29日（日）の日程で開催され、現在7名（女性1名、男性6名）が受講予定です。また今月の事前講習と、2025年おやさと練成会（7月）の女性カウンセラーは、アメリカからパーカー・レイチェルさんが勤めることになりました。
- ・TSA 冬季練成会は、12月26（木）～29日（日）の日程で開催されます。

広報委員会

- ・教祖140年祭に向けた活動のアイデアを管内の方々共有できるようにとの思いで、実際に活動している方々の情報を「一れつ・ニュースレター」に連載しています。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。
情報提供先：川上 (kamishuyo@hotmail.com)
林 (takhayashi@gmail.com)
- ・伝道庁ホームページにて、90周年記念祭時のスナップショットや道友社制作のビデオ、「Stories Inspired by Oyasama」動画、「SoulFire」の記録ビデオ、祭典講話、ポッドキャスト等が視聴出来るようになっていきます。是非、伝道庁ホームページをご覧ください、また周りの方々に紹介いただきますようお願い致します。
- ・伝道庁での祭儀式練習模様の動画が視聴できるようになっています。祭儀式を勤められる先生方は参考にして下さい。

Future Path 委員会

- ・2025年8月30、31日に天理教原典の勉強会を開催予定です。

婦人会

- ・アメリカ婦人会総会
2025年5月17日（土）午前10時 於 伝道庁
- ・年末伝道庁行事ひのきしん
12月26日（木） 遥拝式後伝道庁大掃除
12月28日（土） おもちつき
12月30日（月） おせち料理準備
12月31日（火） //
- ・地区責任者の集い（Zoom）
2025年1月18日（土）午後2時

少年会

- ・2025年度の少年会総会は6月14日（土）に開催予定です。総会の案内、及びアンケートを今月配布しますので、ご確認の上、1月の伝道庁春季大祭までにご提出下さい。
- ・新生児や転入された少年会員がおられましたら、【moto1884@gmail.com】までお知らせ下さい。
- ・鼓笛隊員募集中！道の仲間の輪を広げ、伝道庁、各拠点を賑やかにしましょう！たすけあいや、人のために尽くす喜びを学べる活動を行ってまいります。詳しくは上記のメールアドレスまで。
- ・少年会員に教祖のお話をしましょう。親子ぐるみで教会に参拝し、ひのきしんをさせていただきます。

NYセンター

- ・12/15 ホリデーバザー
- ・12/28 餅つき

天理教スリーデーコース

天理教では、究極の生活境地を陽気ぐらしと教えられます。陽気ぐらしこそが、私達人間の生きる目的です。スリーデーコースでは、おつとめの大切さを学びながら、どのようにすれば陽気ぐらしができるかについて理解を深めます。

日時 2025年2月21日（金）～2月23日（日）
場所 天理教アメリカ伝道庁
内容 講義（親神様、教祖、おつとめなど）グループ活動（ひのきしん、おつとめ、なりもの練習など）

管内新任教会長さんご紹介 2022年～2024年

2022年から2024年にかけて、9名の方々が新たに管内の教会長として任命されました。新年1月号よりそれぞれの会長さん方から、コメントをいただきお写真を添えてご紹介させていただきます。

教会	会長	おはこび	奉告祭
2022年			
LA Central 教会	野町 Janathan	4月18日	6月11日
San Mateo 教会	山本晃	4月18日	6月11日
Central Fresno 教会	雪本 Steven	10月26日	12月3日
2023年			
South California 教会	宮野正雄	2月26日	4月30日
2024年			
Utah 教会	大林昌代	3月26日	4月21日
台壇教会（移転）	ソー・リン・ミツノ	4月26日	7月28日
Chicago 教会	木村陽介	4月18日	7月28日
Orange 教会	伊藤錦平	7月26日	9月21日
Brotherhood 教会	森下 Raymond	11月26日	2025年2月8日

よふほくの集い



TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES, CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE



TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God's children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

“With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed.
The mind alone is yours.”
Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.